

## ジャズピアニスト

カク ユン チャン  
郭 潤 燦

韓国人として初めて名門ジャズクラブ「ブルーノート」への出演、ブルーノート・レーベルへの参加を果たしたジャズピアニスト、郭潤燦さん。韓国のジャズプレイヤーの第一人者として活躍する彼に、日本とアメリカの留学の思い出を語ってもらった。

楽しく勉強しながら日本文化にも触れてください！

一流の音に触れられる国、日本へ

ジャズ好きの父親の影響で、ジャズを聴きながら育った私は、幼い頃からジャズプレイヤーになることを夢見ていました。日本への留学を決意したのは、韓国の音大でクラシックを学んでいた頃です。日本ではジャズが文化として根付いていることを知っていましたし、優秀な日本のミュージシャンだけでなく、世界の一流ミュージシャンが日本で公演を行うことも魅力でした。日本でプロの音楽に触れながら、ジャズを勉強すれば、きっと自分のプラスになると考えたのです。

日米韓、三者三様の魅力にふれる

東京のミューズ音楽院では、コンポーザー・アレンジャー科を専攻し、ジャズピアノを専門的に学びました。学生同士での練習、優秀な教授陣との交流など、そこで得たものは言い尽くせませんし、いろいろな人達とのセッションを通じて、さまざまな演奏スタイルに接することができたと思います。その

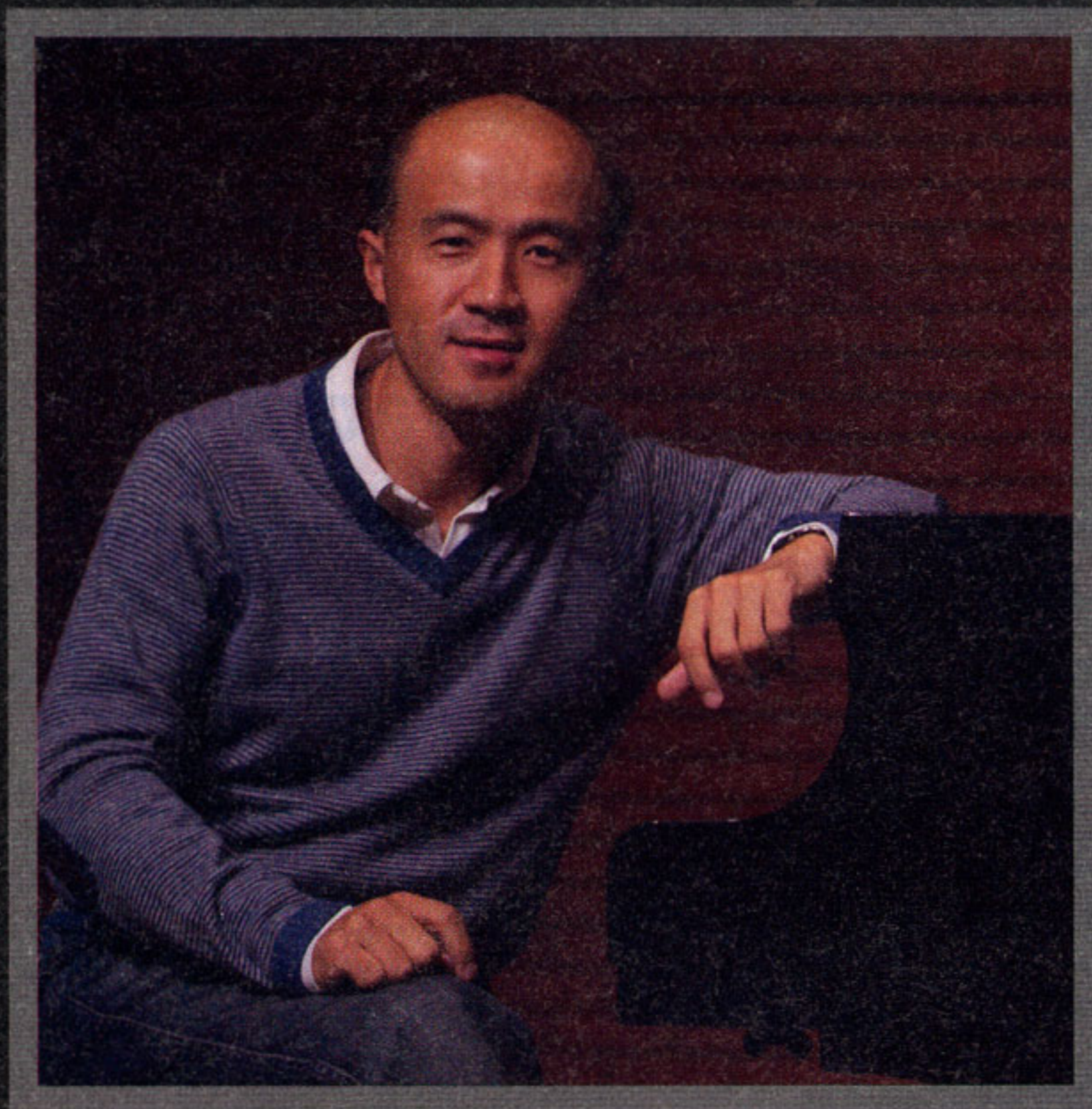
後、アメリカの音楽大学に進んだのですが、ここでは日本とは違う刺激が待っていました。日本のジャズは基本的に忠実で、個々のプレイヤーのテクニックも秀逸なのですが、アメリカでは、プレイヤーが基本の枠から抜け出している、と言う感じなんです。特に即興の演奏では、誰も音楽的なストレスを感じることなく、みんなが自分のスタイルで演奏するので、まさに「自由」のひと言でした。でも、どちらがいい、悪いという話ではありません。一つひとつの花が違うように、また一粒ひとつぶの雪がそれぞれ違った結晶体を持つように、国のスタイルが違うだけの話です。韓国は情熱的だし、日本は他人への配慮が深い、アメリカは自由の中に孤独がある。どこの国にもいい点、悪い点があり、すべての国は平等だと感じます。

「秩序の中での自由」を楽しんで！

今年8月には、長野で行われた全国留学生の集いに参加し、演奏とセミナーを行いました。留学生の皆さんには、楽しく勉強し

つつ、日本文化にもたくさん触れてほしいですね。なにしろ日本は、自分が努力しさえすれば、世界トップレベルの学問的知識を得られる国ですし、日本の人には誠実さと人を配慮する心もあります。ぜひ、「秩序の中での自由」を経験してください！

Text : Yoshida Chiharu



### Profile

幼少時からジャズに親しみ、6歳から作曲とクラシックピアノを学ぶ。1989年～93年に東京のミューズ音楽院、その後米



国ボストンにあるバークリー音楽大学に留学。2000年以降、5枚のアルバムを発表。最新アルバムの「I am Melody」(東芝EMI)ではプロデュース、アレンジを担当するとともに、韓国のトップ・アーティスト9人との共演を果たした。